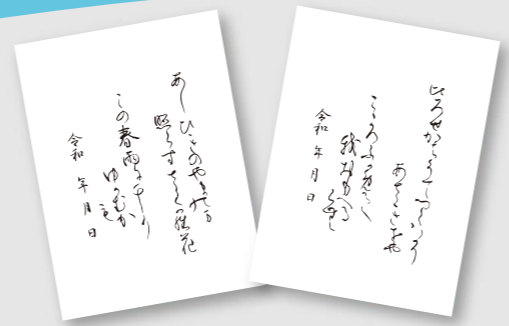


町内の古墳や史跡をめぐって

# ご ぶん いん 御墳印 をあつめよう!



令和3年6月から河合町史跡&古墳めぐり「御墳印帖」プロジェクトがスタート!

## 御墳印 第4弾 5枚の印をご紹介します

裏面に マップあり

廣瀬川 (万葉集)



桜峠 (万葉集)



大輪田五輪塔



大塚山古墳2



九僧塚古墳



### ニュース

令和5年4月から“ほっかつ（北葛城）御墳印”もスタート! 一部をご紹介します★

上牧町



王寺町



広陵町



河合町



詳しくはこちら



## 御墳印のあつめ方

① 個人やグループで 現地に赴き撮影

② 中央公民館事務所で 撮影した画像を見せる

スマホやデジカメ 写真の画面でOK

③ 置き書きの 御墳印をゲット!

1枚100円で 購入できます

ジャーン! 御墳印帖に 貼りました!



御墳印帖の デザインは約12種類! お気に入りを見つけよう

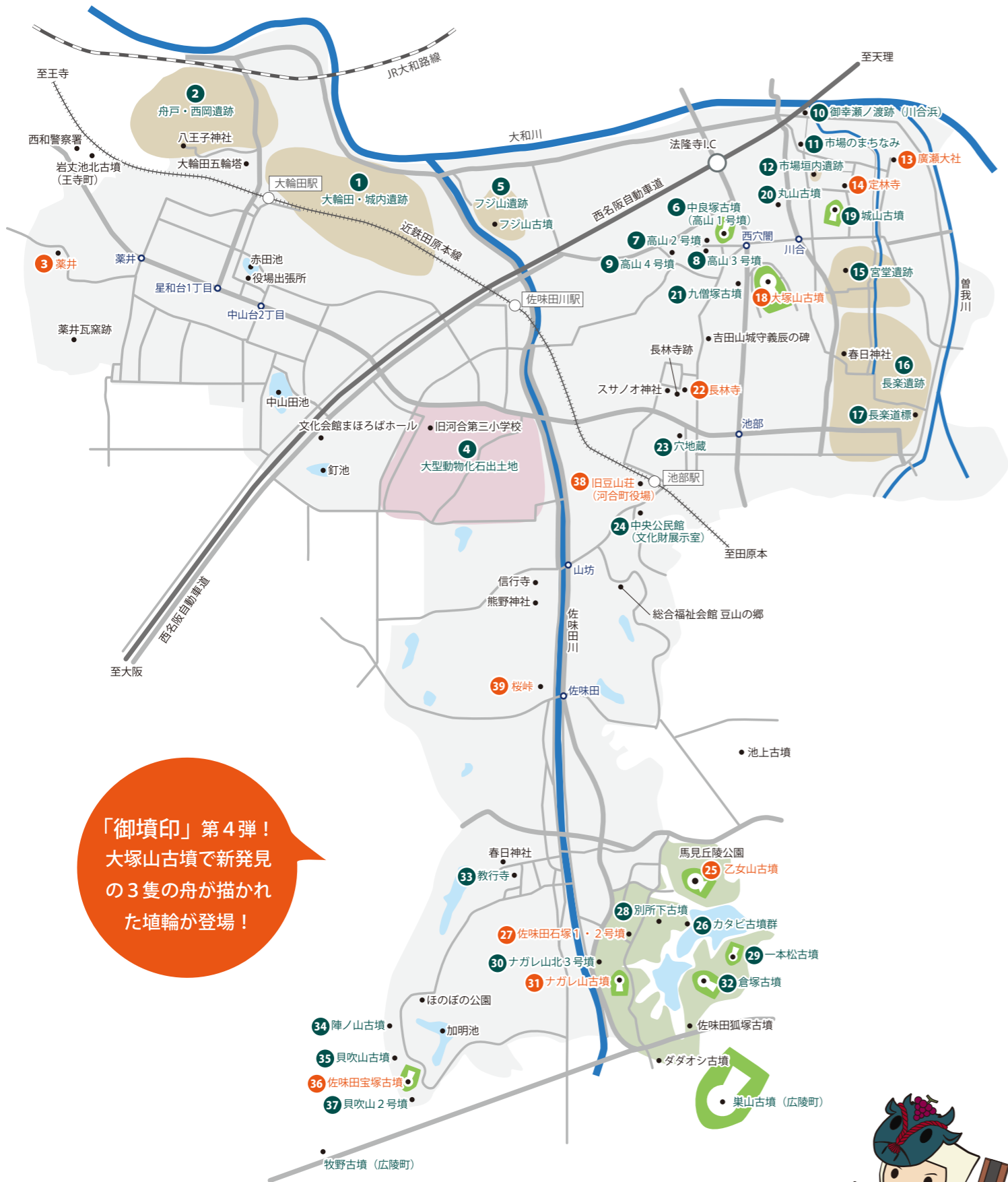
●御墳印帖は1冊1,000円。 中央公民館窓口にて販売。

# さあ! 古墳&史跡へ GO!!



# 河合町古墳と史跡のマップ

河合町には、遺跡や古墳、また歴史的建造物が数多く残されています。知れば知るほど河合町がキニナル！



「御墳印」第4弾！大塚山古墳で新発見の3隻の舟が描かれた埴輪が登場！

問い合わせ 河合町役場 広報広聴課 奈良県北葛城郡河合町池部 1-1-1 ☎0745-57-0200  
生涯学習課（中央公民館内） 池部 2-13-1 ☎0745-57-2271



## 1 大輪田・城内遺跡 (大輪田殿五輪塔)

中世の豪族大輪田氏の大輪田城があり、五輪塔は大輪田氏の墓と伝えられています。記年銘はなく、形状の特徴から室町時代初期の製作と推定されています。その他、この地域の畑地では、中世以降の遺物が多く出土しており、現在も土塁の跡や広畑（城畑）などの地名にその名残が感じられます。

## 2 舟戸・西岡遺跡

河合町と王寺町にまたがる舟戸山の頂部を中心に形成された遺跡です。平成5年度に実施された山頂付近の調査では弥生時代後期の建物跡が確認されており、高地性集落であった可能性が考えられます。

## 3 薬井

石の井筒を施した掘り抜き井戸。むかし、この村に行脚でやってきた弘法大師が掘ったと伝えられている井戸で、眼の病氣によく効く薬水とも言われてきました。

## 4 大型動物化石出土地

130～140万年前のものとして推定される長さ158cmのシガゾウ（旧ゾウ）の門歯（象牙）。大正15年（1926）2月10日、穴間西山のブドウ畑を開墾中に、現在の旧河合第三小学校の南側付近で見つかりました。他にも河合町で5箇所、となりの上牧町では2箇所から大型動物の化石が出土しています。

## 5 フジ山遺跡

佐味田川と大和川の合流する位置から旧石器時代のナイフ型石器や、剥片が発見されました。また、遺跡内には、直径約40mになる大型の円墳「フジ山古墳」があります。

## 6 中良塚古墳(高山1号墳)

二段築成で墳丘全長8.8mの前方後円墳。5世紀後半の築造。「中良塚」は「穴間塚」の転訛と考えられています。

## 7 高山2号墳

発掘調査によりもとの規模は直径約3.5mと推定される円墳です。周濠部から人物埴輪や、動物埴輪の一部が出土しています。

## 8 高山3号墳

発掘調査によりもとの規模は直径約3.0mと推定される円墳です。周濠部から滑石製勾玉が出土しています。

## 9 高山4号墳

現在は東西1.8m、南北1.2mほどの規模ですが、もとは直径2.0m以上の円墳であったと見られます。

## 10 御幸瀬ノ渡跡 (廣瀬川・川合浜)

〈万葉集〉廣瀬川 袖つくばかり浅きをや 心深めてわが思へらむ かつて大和川水運が盛んだった頃、現在の御幸橋付近に渡しがありました。この船着場は「川合浜」とも呼ばれ、舟運の中継地として栄えました。御幸瀬の名は飛鳥時代に天武天皇が廣瀬神社と龍田神社へ行幸したこと、または、奈良時代に元明天皇が廣瀬神社へ行幸したことによると伝えられています。また川合浜は古代より廣瀬川（現在の大和川）と多くの川が交わる奈良盆地の水運の要衝でした。万葉の時代にも、様々なドラマが起こっていたようで、下記の和歌が詠まれています。

## 11 市場のまちなみ

大阪湾と奈良盆地を結ぶ重要な交通路であった大和川沿いには、御幸ヶ瀬と呼ばれる船着き場（現在の御幸橋付近）がありました。多くの物資や人が行き交う御幸ヶ瀬の南側では、市が立ち並び、大いに賑わったことから「市場」と呼ばれるようになりました。現在でも残る古い街道沿いには水運で栄えた当時の面影が残っています。

## 12 市場垣内遺跡

城山古墳の北側に位置する一辺約40mの規模で周囲に濠を巡らせた中世環濠跡。戦国時代の吉田山城守義辰の館であったとされ、発掘調査で中国や韓国の陶磁器の破片が多く出土し、はるか西方の国々と結びつく水上交通の要衝であったことが分かります。市場垣内遺跡は日常生活の場として、近接する城山古墳は戦時の際の砦であったと考えられています。

## 13 廣瀬大社

創建年代は不明ですが、『日本書紀』の天武天皇4年（675）の条に「大忌神を廣瀬の河曲に祀らしむ」とあり、龍田の風神と共に国家的な神事が営まれていました。『河相宮縁起』では崇神天皇の時代に創建されたと伝えられ、7世紀以前にも何らかの信仰があったようです。祭神は若宇加能売命で、水の神・五穀豊穣の神として広く信仰されています。現在の本殿は、江戸時代中頃の正徳元年（1711）の造営で、一間社春日造の様式をよくつたえるものとして、昭和63年3月22日、奈良県指定文化財（建造物）に指定されています。毎年2月11日に行われる砂かけ祭は、雨に見立てた砂をかけあい五穀豊穣を祈願する大和の奇祭のひとつとして有名な祭りで、平成21年12月11日に河合町無形民俗文化財に指定されました。

## 14 定林寺

廣瀬神社の西側、城山古墳の北側の小寺院。廣瀬神社所蔵の「和州廣瀬郡廣瀬大明神之圖」では、現在の宮堂遺跡の位置に聖徳太子建立の寺院として七堂伽藍の定林寺が描かれています。

## 15 宮堂遺跡

縄文時代から集落が形成されていました。飛鳥時代以降の須恵器や、子瓦の破片が出土し、「和州廣瀬郡廣瀬大明神之圖」が示す大規模な寺院が存在した可能性があります。

## 16 長楽遺跡

平安時代に長楽周辺にあったとされる荘園「小東庄」に關係する遺跡です。春日神社の南側で、平安時代の革帯の飾り「石帯九鞆」が出土しており、この辺りの荘園を管理する荘館があったと見られています。また、春日神社の東側に長楽寺があったとされています。

## 17 長楽道標

もとは曾我川左岸（西岸）の堤防上にあった道標で、北・東・南の面に高野・吉野・奈良等の方向を示しています。西面には嘉永4年（1851）の建立年と発願主を記している河合町内で最大の道標です。

## 18 大塚山古墳

5世紀後半築造の三段築成の前方後円墳。墳丘全長は19.7m、同時期では奈良盆地内で最大級の古墳です。遺物は、円筒埴輪・朝顔形埴輪・家形埴輪の円柱部分に小型の盾を付けたもの・盾形埴輪・蓋形埴輪・須恵器模倣土師器など。令和2年度に出土し

た円筒埴輪には3隻の船が描かれていることがわかりました。

## 19 城山古墳

大塚山古墳群で最後に造られた古墳。5世紀末から6世紀初頭の築造と考えられ、墳丘全長は10.9m、大塚山古墳と同様に同時期では奈良盆地内で最大級の古墳です。中世に砦として利用されたため、墳丘は変形していますが、三段築成と推測されています。

## 20 丸山古墳

二段築成で直径4.8mの大型円墳。5世紀後半の築造。

## 21 九僧塚古墳

二段築成で一辺約3.5mの方墳。大塚山古墳とほぼ同時期に築造され、大塚山古墳の副葬品埋納施設と考えられています。

## 22 長林寺

創建以来、衰退と復興を繰り返し、文久2年（1862）に現在の形になった寺院。聖徳太子の建立と伝えられていますが、伽藍が整ったのは、飛鳥時代後期以降とされます。金堂が西に、塔が東にある斑鳩の法起寺式伽藍配置であったことを示す金堂基壇と礎石、講堂礎石、現長林寺の中庭に塔心礎が残っています。「長倉寺瓦」銘の丸瓦も出土し、本来は「長倉寺」という名称であったとされ、「穴間」という地名は「長倉」の転訛と考えられています。

## 23 穴地藏

安産に靈験があるとされる地藏尊。江戸時代の作と思われる地藏など小石仏6体が石屋形の中に安置されています。

## 24 文化財展示室

ナガレ山古墳をはじめ、町内の各遺跡の出土品が展示されています。見学希望の際は、事前に予約してください。入館無料、月曜・年末年始休館。開館時間9時～17時。 ■予約 0745-57-2271

## 25 乙女山古墳

典型的な帆立貝形古墳として著名な古墳。墳丘全長は130mで、後円部直径104mに対し、前方部長30m、幅52mで極端に短く低平になっています。後円部には別に造り出しがあり、家形埴輪などが出土しています。また、墳丘の周囲には周濠と外堤が巡っています。

## 26 カタビ古墳群

馬見丘陵公園造成に先立つ発掘調査で4基の古墳が確認されました。1号墳（方墳）と3号墳（円墳）は大型古墳が盛んに築造された5世紀代に造られたもので、2号墳（円墳）と4号墳はほとんど古墳が築かれなかった7世紀代の古墳です。

## 27 佐味田石塚1・2号墳

昭和59年、馬見丘陵公園中央エリア入口付近の県道工事の際に発見され、同エリア内に移築保存されている古墳です。両古墳ともに竪穴の小石室で、1号墳の床面には飛鳥時代の瓦が敷き詰められていました。1号墳は7世紀前半、2号墳は6世紀末に築造されたものです。

## 28 別所下古墳

直径60mの円墳、または全長60mの帆立貝形古墳と考えられています。4世紀後半の築造で、河合町内では佐味田宝塚古墳、ナガレ山北3号墳と並ぶ最古の古墳です。

## 29 一本松古墳

全体的に開墾が著しいため詳細は不明ですが、墳丘全長150m、後円部直径90m、前方部幅60m程度の前方後円墳とされ、築造時期は4世紀後半と見られています。

## 30 ナガレ山北3号墳

ナガレ山古墳の北側に位置する直径約60mの円墳で、付近から出土した鬮付円筒埴輪や朝顔形埴輪の特徴から、別所下古墳と同時期の4世紀後半の築造と考えられています。

## 31 ナガレ山古墳

5世紀初頭の築造とされる全長105mの前方後円墳。東側半分は葺石と埴輪列が復元され、古墳頂上から当時の姿と現在の姿を同時に見比べられる、全国でも珍しい古墳です。

## 32 倉塚古墳

現状で墳丘全長約180m、後円部直径106m、前方部幅70mを測る前方後円墳です。詳細は不明ですが、周辺で出土している埴輪円筒棺から5世紀前半の築造と推測されています。

## 33 教行寺

石山合戦で織田信長の軍勢に焼き払われ、天正8年（1580）に、摂津富田（高槻市）から現在の地に移ってきた寺院。境内には天保14年（1843）に建てられた本堂や鼓楼が残されています。

## 34 陣ノ山古墳

墳頂部に盗掘穴がある直径約1.8mの円墳。戦国時代に陣が張られた場所とされており、法螺貝が吹かれた貝吹山と対をなしています。

## 35 貝吹山古墳

佐味田宝塚古墳の後円部北側にあった前方後円墳とされていますが、開墾のために墳丘の状態が不明です。明治18年（1885）に、銅鏡7面が出土しています。

## 36 佐味田宝塚古墳

全長11.2m、後円部直径60m、前方部幅4.5m、4世紀後半に築造された馬見丘陵内最古の前方後円墳。明治14年（1881）に家屋文鏡を含む36面の銅鏡の出土で有名なほか、玉類・鉄形石など多数の遺物が出土しています。

## 37 貝吹山2号墳

佐味田宝塚古墳史跡指定地内南西部に位置する古墳で、直径約30mの円墳です。

## 38 旧豆山荘

大和鉄道（現 近鉄田原本線）の敷設を行った森本千吉が池部駅に隣接する地に大正12年に建てた邸宅です。昭和23年に河合村（当時）役場となり、昭和46年に河合町が発足すると新庁舎建設のため一部取り壊しが決定し、往時の半分以下の規模になりました。現在は主屋と洋折衷の離れ、棟門と阿吪のライオンの浮彫などが残っています。

## 39 桜峠

〈万葉集〉あしひきの 山の間照らす桜花 この春雨に散りゆかむかも 桜峠は、桜井市三輪から大阪に至る古くからの主要道路でした。江戸時代の書物『大和志』には「櫻嶺」と記されており、古今を問わず桜の名所であったことが伺えます。現状、通り抜けはできません。